

開催地名：千葉県流山市	
開催日時	令和元年 11 月 14 日（木） 14：00 ～ 16：00
開催場所	流山市文化会館
語り部	吉田 亮一 （宮城県仙台市）
参加者	一般市民、自治会、自主防災組織関係者、民生委員等 約 200 人
開催経緯	流山市では、これまで大きな自然災害が起きていない。自主防災組織は設立されているが、自主防災組織の代表としての役割や行動がわからないため、地域住民に呼びかけて防災活動を進めたいが、具体的に何に取り組めば良いのか苦慮している。また、地域住民を主体とした防災活動が行われていない地域も多いため、地域住民同士が助け合う気持ちを持つことの必要性を認識し、市民の防災意識の向上を促したい。
内容	<p>（1）はじめに</p> <p>私は平成 17 年に地元茂庭台 5 丁目の町内会の班長となり、その翌年から「防災 5 ヶ年計画」と題して、町内会総括防災部長の立場で、共助としての防災を作り上げ、様々な活動をしてきた。そして、大震災発生後は指定避難所の責任者として、陣頭指揮を 17 日間取った。管轄している地域 269 世帯の町内会を戸惑うこと無く、全て地域住民のみの手で実施し、復興へと導いた。</p> <p>（2）防災とは</p> <p>自助、共助、公助の 3 要素が揃って、初めて「防災」といえるのかもしれない。そして、それらは全ての人において、必要不可欠と言える。「心配ない」、「ありえない」、「まだ大丈夫」、「まさかと思う」。これらは全て人間だけが思うことである。常に危機感を持つことと想定以上の備えをしておくことが防災・減災の基本である。自然災害の発生が今後も予想される中で、全ての責任者及び住民は最大限の危機感と想定以上の備えで命を守ることを是非お願いしたいと思う。そして、「想定外」とは単なる言い訳に過ぎないということを認識していただきたいと思う。</p> <p>（3）災害に勝つために</p> <p>平成 18 年から、あらゆる準備を行ってきた。まずは、町内会の企画と計画で、防災マップ、防災マニュアルの作成を重点的に行い、何度も見直しを重ねた上で、管轄の茂庭台 5 丁目全 269 世帯に配布した。同じく、地域において、消火班、救護班、避難誘導班、給食給水班、報告連絡班、警備班からなる自主防災組織もあわせて設立した。これらは、前年の班長が自主防災組織委員になった上で、それらの役割に就いてもらった。あえて持ち回りにして、5 年も経てばほと</p>

んどの世帯の人々が全ての役割を経験することになるように仕向けた。従って、防災時にその班員がいなくとも、代りに経験者が担えるようにした。それと並行して、毎年5、6月には防災勉強会も実施し、町内地域において防災に関する意見交換も行った。それらの総仕上げとして、あえて勉強会の内容を忘れかける頃（具体的には毎年9月頃）には総合防災訓練を行った。

その防災訓練についても、昼間に災害が発生した場合、夜間に災害が発生した場合と交互に開催した。しかし、住民全員が参加し体験しなければ意味がないので、最も参加のしやすい日曜日に設定して行った。更に、平日の昼間に小中高生を中心にしての訓練もあわせて取り入れ、大人を抜きにした想定で実施した。

また、地域内の介助ということで、かつて医師、介護士、学校の先生などの職についていた方々を募り、災害時の協力体制や指揮、命令系統といった縦のつながりの整備も進めた。

(4) 避難所運営が上手くいった要因

以上のように、前項で述べた平成18年からの5年間で行っていたことを実践しただけで、各避難所の運営はスムーズに行ったと思っている。その中でも、小中高生にある程度の役割分担をさせることにより、喜んで、そして迅速に動いてもらえるので、それらの良いイメージのまま、避難所の対応や運営が良い方向へ向く。そして、結局は地域ぐるみの日ごろの積み重ねが、いざというときには非常に役立つ。総合避難訓練はまさにその一環である。防災訓練の担当者の方々にはお願いしたいのは、地域の避難訓練や避難所設営訓練には是非児童・生徒を参加させ、受付や設営、炊き出しなどを体験させてほしいということである。



開催地より

大震災前に、地域できちんと備えをされていたこと、地域住民の防災に対する意識が高いこと、そして、そのような環境を整備した語り部の努力に敬意をあらわしたいと思った。今後の活動に大いに参考になるお話であった。